

専門高校生徒の研究文・作文コンクール 「経済同友会賞」7編を顕彰

みんなて描く

みんなの未来
プロジェクト

経済同友会は「令和2年度専門高校生徒の研究文・作文コンクール」(公益財団法人産業教育振興中央会共催)において「経済同友会賞」7編を選出、1月8日公表した。受賞作品は本会ウェブサイトのほか、産業教育振興中央会選出の作品と合わせ、『‘翔’第30集(専門高校生徒意見・体験発表文、研究文・作文集)』(産業教育振興中央会、2021年1月末発行)に掲載されている。



本コンクールは専門教育を主とする学科で学ぶ高校生たちの学習意欲を高め、専門高校の活性化を図ることを目的として、産業教育振興中央会が1982年から開催している。

一方、経済同友会では1999年から教育現場との交流を推進、会員による出張授業など活発に活動を展開してきた。2011年からは震災復興プログラム「IPPO IPPO NIPPON プロジェクト」を始め、東北や熊本など被災地の専門高校に学習機材を提供し、将来の日本の産業・企業を支える専門高校の重要性を再認識した。

このような経緯から、目指すべき社会像を幅広いステークホルダーと議論する「みんなて描くみんなの未来プロジェクト」の一環として、2017年から本コンクールに参画し、産業教育振興中央会と共催している。

今回は全国から研究文49編、作文264編の応募があった。そのうち事前審査を通過した論文の中から、経済同友会審査委員が①妥当性、②論理性、③独創性、④説得力、⑤将来性の視点で判定した結果、研究文3編、作文4編を選出した。

■選考後評

■橋本 圭一郎 副代表幹事・専務理事

研究文49編、作文264編の応募作品の中から、当会会員からなる審査委員会(橋本圭一郎委員長、副代表幹事・専務理事)の審査を経て、経済同友会賞として研究文3編、作文4編を選出した。

経済同友会賞の受賞は、学生たちにとって大きな励みとなっているとの報告を教育現場から受けている。

研究文・作文とも、発想のオリジナリティー、論旨の首尾一貫性、ワクワク感などの観点から審査した。その結果、研究文3編、作文4編に経済同友会賞の授与が決まったが、審査対象となった全ての作品のレベルはとても高く、審査員は賞の選定にかなり悩んだというのが実情である。

見事な文章構成力のみならず、若者らしいみずみずしい感性を実際の研究活動につなげる積極的な姿勢、ふるさとを愛する気持ち、幼いころからの夢に向かう真摯な努力等々、感銘を受ける作品に数多く出会えた。残念ながら選から漏れた作品に対しても、心から拍手を送りたい。

世の中では今、新型コロナウイルスにより、さまざまな分野で大きな変化が生じている。さらに、地球環境問題などによって、世界の人々の価値観も大きく変わりつつある。今回の研究文・作文で示された「夢への挑戦」や「体験を通して得た内なる気づき」こそが、社会の激変を乗り越えていくための原動力となる。

今回審査員という立場で、作品を通して大きな刺激を受けた。心から感謝するとともに、若者の将来に大いに期待したい。

審査委員会

敬称略。役職は開催当時

■審査委員長

橋本 圭一郎

副代表幹事・専務理事／広報戦略検討委員会 委員長

■審査委員

峰岸 真澄

副代表幹事／教育改革委員会 委員長
(リクルートホールディングス 取締役社長 兼 CEO)

林 礼子

学校と経営者の交流活動推進委員会 委員長
(BofA証券 取締役 副社長)

「経済同友会賞」受賞作品



研究文の部

カメ農法で生物多様性と農耕地の保全、循環型有機農業の実現

愛知県立佐屋高等学校
【園芸科学科3年】
石井 日香留さん 澤井 亮太さん
屋宜 虎我さん

近年、農耕地を脅かす外来種に着目。生態系調査や捕獲調査を実施してアカミミガメを駆除した。さらにカメの甲羅から植物の生育に有効な成分が溶け出すことを実験により明らかにし、肥料としての有用性を確認した。



ベッド上での足浴を効果的に行うために

広島県立広島皆実高等学校
【衛生看護科3年】
田中 千夏さん 澤原 萌夏さん 高橋 優月さん
平田 満月さん 松浦 菜奈さん 山本 綾音さん

寝たきりなど十分な体位で足浴を行えない患者さんに対して、最適の湯温と水位で行う足浴と同じ効果が得られる条件を検討。よりリラクゼーション効果や入眠効果の得られる湯量や適温、工夫の必要性を見いだした。



自立に向けて必要な力とは～大学受験に向けた準備からの考察～

愛知県立港特別支援学校
【商業科3年】
大徳屋 諒さん

自己分析や他者評価、実地調査や電話、インターネットによる情報収集を通して、充実した大学生活を送るために身に付けることを考察。受講面や生活面での課題を明らかにし、障害者支援アプリなどの活用法や行動変化の必要性を理解した。



作文の部

健叶とともに

北海道静内農業高等学校
【生産科学科3年】
清水 悠花さん

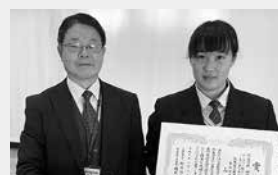
競走馬の出産から育成、セリまで立ち会った1年半を振り返る。「健叶」と名付けた仔馬を競走馬として育てるため、必要な運動や栄養管理に試行錯誤して取り組んだ。セリで落札された瞬間の競走馬としての第一歩を見届ける。



ゲンコウに魅せられて～島に夢の懸け橋を～

佐賀県立唐津南高等学校
【食品流通科3年】
山下 瑠捺さん

中学校の授業で故郷、馬渡島の活性化を考えるきっかけをつかみ、高校進学後にプロジェクトを立ち上げ奮闘する。島に自生する幻の果実「ゲンコウ」の商品化、害獣のイノシシとゲンコウをコラボした料理の提案など産官学連携で取り組む。



学びが未来につながる～祖父を超える料理人を目指して～

愛知県立豊丘高等学校
【生活文化科3年】
水原 茜さん

料理人だった祖父の姿を見て、自身も唯一無二の料理人を目指す決意をする。高校での学びや祖父の言葉から、高い技術力だけではない料理人に必要なことを実感し、食物調理技術検定1級合格に向けて自分の未来像を描く。



患者さんと関わるということ

三重県立桑名高等学校
【衛生看護科3年】
西谷 胡十さん

「一人ひとりと向き合う」「個別性のある看護」とは何か。実習を通して患者さんと向き合い、あるべき看護を実現していく難しさを実感するとともに、患者さんや指導者への感謝の意を表し、理想とする看護師になることを誓う。

